

小学校用

家庭教育学習資料

平成29年度改定

語り合いを通した親育ち



家庭は教育の原点

家庭は、子どもの人格形成を担う最も基礎的な場です。親の責任を自覚し、家族の深い愛情と、時には厳しさを持って思いやりのこころを育みましょう。

- 1 子どものよさを見つけ、子どもに自信を持たせましょう。
- 2 親は子どもに「してはいけないこと」を責任を持って教えましょう。
- 3 家族の一員としての役割を子どもに持たせましょう。

滋賀県教育委員会

家庭教育学習資料を活用した 親育ち・子育て学習講座

子育ては悩みの連続

- 交友関係
- しつけの仕方、叱り方
- 小学校での集団生活
- 親同士の人間関係
- 遊びの内容
- 子どもの変化への対応等

語り合い
学び合い

親育ち・子育て学習講座

家庭教育学習資料

- 親自身に関する課題
- 親子関係に関する課題
- 親子と地域との関係に関する課題

◎参加者自身や子どものエピソード、悩み等を本音で語りましょう。
◎他の親の話にもしっかりと耳を傾け、子どもの様子と重ね合わせ、親として何が
できるかを考えてみましょう。

実践

「親育ち」

- 子どもの個性や特質を子どもの様々な出来事やエピソードから把握し、理解する中で、子どもとどのように関わり、接していくかを学ぶ。
- 子どもの小さなトラブルやエピソードに付き合いながら、子どもの成長に伴って生ずるトラブルに、子どもが独立するまでの間、親として付き合っていく決意と姿勢を形成する。
- 自己および家族の長・短所を認識し、長所を生かし他の親、家族に貢献できることを見出す。また、短所を支えてくれる人間関係を築く。

■テーマ設定について

親の悩み【変化の激しい時期で、その変化に戸惑う】

交友関係

- いい子と（親から見えて気に入った子）と仲良くしてほしい。
 - 仲間はすれにならないでほしい。
 - 親の目の行き届かないところで悪いことをしていないか、また、いじめられていないか心配。
- ※子ども自身も友だち関係にかなり神経を使っている様子が伺える。

親同士の人間関係

- 友だちの少ない子、いじめられている子、学校に行きたがらない子等、悩みは深刻。
- ※それらの子の親にとっては、他の親が割と無関心であったり、世間が冷たい目で見たりすることが大変つらい。

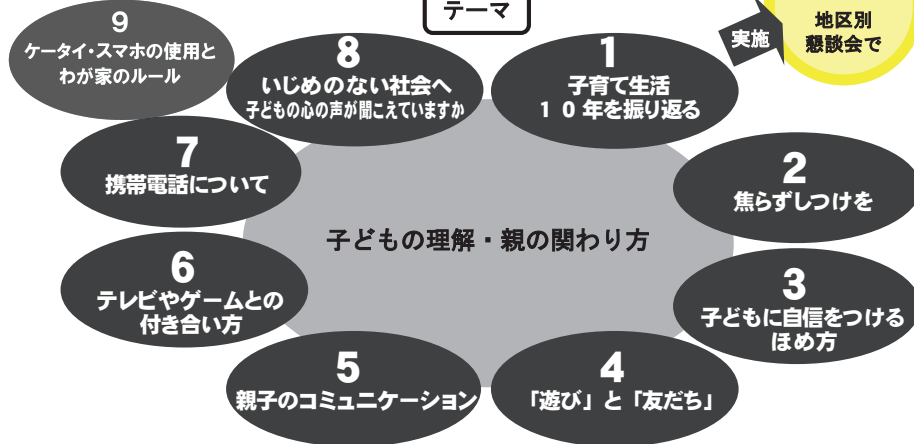
しつけの仕方

- 身辺自立をさせたいが、親の言うことに対して反抗的であったり、機嫌を悪くしたりして、対応が難しい。
 - 気に入らないとすぐ怒る。
 - 携帯電話を持ちたがる。
- ※大人びた様子を見せるかと思うと、妙に甘えてくることもある。

遊びの内容

- テレビゲームばかりしている。
- 休みの日に家でごろごろしている。
- 外で健康的に遊んでほしい。

テーマ



子どもの姿と親の留意点

まだまだ子どもっぽいところも残っていますが、人格的にも知的にも大人へと変化していく時期です。活動範囲が家庭や学校から地域社会へと広がる、大人として参加する社会生活への準備の時期と考えたいものです。仲間との関係を大切にし、友だちと盛んに関わらなから自分らしさに気づいたり、友だちのよさに気づいたりしていきます。自分なりに手探りしながら自分らしさを求め、可能性を試している時期ですので、うまくいかないとイライラしたり親に反抗したりもします。大人と子どもの間を行ったり来たりしながら、徐々に自立への道を進んでいきますので、親も気長にそれを見守り、甘えてきたときには十分に受け止めてやる、頑張っているところは認めてほめてやるなど、自分探しの旅が続けられるように暖かく支えていきたいものです。



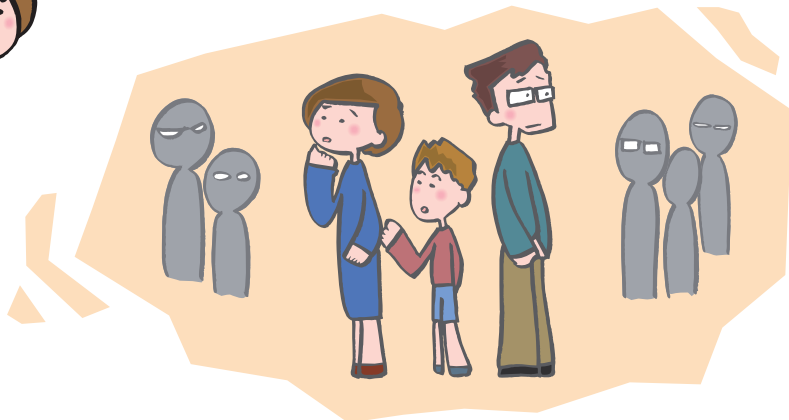
この地域での子育て生活も10年目を迎えます。私も家族もいろいろなことを経験してきました。我が子や家族の特徴もずいぶんとわかってきました。

そのような中で、子どもが思春期を迎えようとしています。

これから子どもと家族が思いもよらないような新たなトラブルに直面しないかという不安があります。

そのとき、世間体にとらわれることなく、自分らしくトラブルに対応して子育てができるかなという不安があります。

また、その一方で、世間から孤立したり逸脱したりしないかなと心配です。



あなたの子育て経験10年のエピソード、トップ5はどんなことですか。

◆ 今後の子育てに生かせること ◆

POINT

子育て生活の10年はとても貴重なものです。それは、家族にとっても、他の家族にとっても貴重な財産です。

だから、10年間の経験（トラブルやエピソード等）をはっきりと伝え、他の家族の経験もしっかりと聞いて、認め合い・学び合いながら、制約するばかりの世間ではなく、支え合う世間をつくっていききたいものです。

テーマ1 子育て生活 10 年を振り返る

【ねらい】

現在までの子育て生活 10 年を振り返り、その間に経験したトラブルやエピソード等を伝え合うことを通して、今後の子育て、家庭教育に生かせることを見出すと共にお互いが認め合い、支え合うことができるようにする。

【活動の流れ】

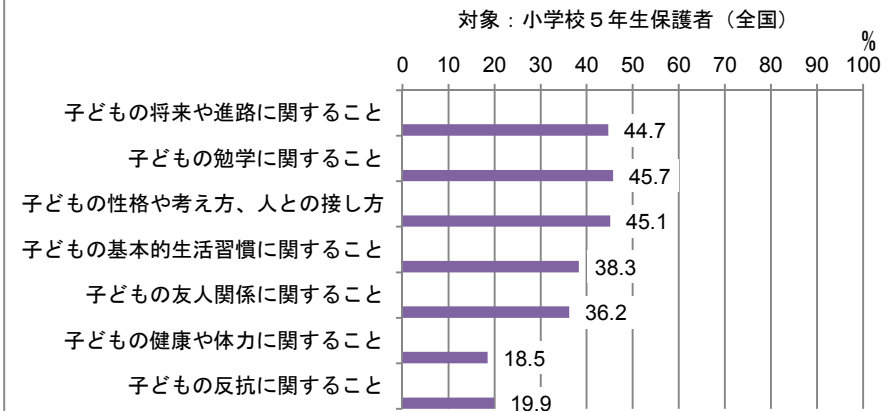
- 1 事例を読み、子育て経験 10 年のトラブルやエピソードのトップ 5 をワークシートに書く。
- 2 トラブルやエピソードを交流し合う。
- 3 トラブルやエピソードの交流から、今後の子育て、家庭教育に生かせることをワークシートに書く。
- 4 ワークシートに書いたことを交流する。
- 5 話し合いのまとめをする。

【支援のポイント】

- 事例を紹介した後、ファシリテーター自身のエピソード等を簡単に紹介し、参加者が子育て経験を振り返りやすくするとともに、場の雰囲気を和らげる。
- エピソードやトラブルに対して、親としてどのように対応したかについても、交流できるようにする。
- 世間体、地域の目を気にすることは必ずしも悪いことではなく、気にしすぎて自分を見失うことが問題であることを伝える。
- 外の目を気にせずやりたい放題する（モラルを考えない等）ことと、世間にとらわれることなくのびのび生活することとの違いについても補足するように努める。
- 自分らしくトラブルに対応していくためにも、外との交流を避けるのではなく、自分の言いたいことをはっきりと伝えるとともに、相手の話もしっかりと聞きお互いに認め合うことが大切なことを伝える。
- 子どもの活動範囲が地域社会へ広がることや子どもが個性を伸ばす時期であることを考えると、親の地域社会との関わり方が子どもの成長と大きく関係することを押さえる。

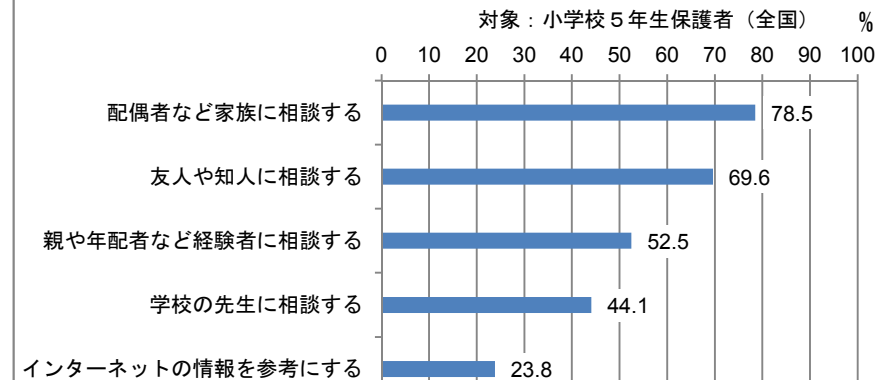
【参考資料】

子育てについての悩みや不安の内容



【平成 27 年度教育に関する保護者の意識調査報告書（公社）日本 P T A 全国協議会】

子育ての悩みや不安の解決方法



【平成 28 年度 教育に関する保護者の意識調査報告書（公社）日本 P T A 全国協議会】

2 焦らずしつけを



何でもやりっぱなしで、言っても言ってもなかなか片付けようとしません。
それに、何をするにも動作が遅いので、ついつい見ていられなくなり、
私がやった方が早いので手を出してしまいます。
今度は手を出さずに放っておこう、子どもにまかせてみようと思うのですが、
部屋が散らかっていることに我慢できずに片付けてしまいます。こんなことの繰り返しで、
自己嫌悪に陥る毎日です。



ゲームをいっぱい出して遊び、なかなか片付けができない時



親
1



「困った子だな。早く片付けないと、
もうこれからは、あなたの言うこときいてあげないからな。」

親
2



「困った子ね。早く片付けないと、〇〇さん(家族の誰か)に
後で叱ってもらうから。それがいやなら、すぐに片付けなさい。」

親
3



「部屋が片付いていると、すっきりして気持ちいいのにね。
みんなの迷惑にもなるし、一緒にお片付けしようか。」

親
4



何も言わずに放っておく。

あなたのご家庭で、お子さんが左記のような反応をした時、どのように対応されますか。
親①～④のどれに近いですか。
また、しつけ全般で気をつけておられることはどんなことですか。

◆ 参考となるしつけのポイント ◆

POINT

しつけは大切ですが、しつけなくては、という気持ちから、つい口うるさく言ってしまう場合があります。親のイライラやストレスが叱るということにすりかわってはいないでしょうか。叱っている真意が、子どもにしっかり伝わっていることが大切です。一度振り返ってみましょう。また、子どもも家族の一員ですから、家族全員がどのようにすれば共に気持ちよく過ごせるかをしっかりと考えさせましょう。

テーマ2

焦らずしつけを

【ねらい】

後片付けについての事例を通して、後片付け等のしつけにおいてどのような言葉かけが有効かを考えるとともに、しつけ全般についてのポイントを学ぶ。

【活動の流れ】

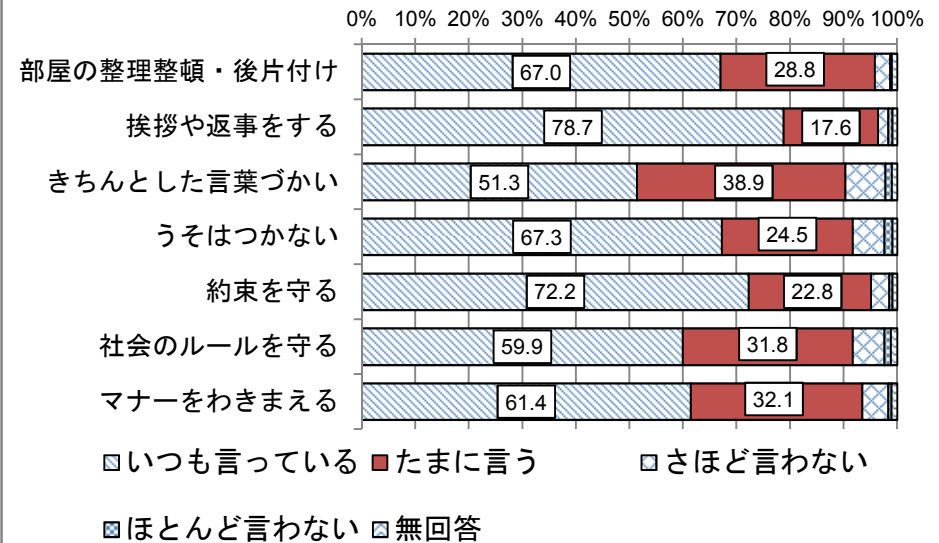
- 1 事例を読み、後片付けができないときの言葉かけについて、4つの中から近いものを選びその理由をワークシートに書く。
- 2 ワークシートに書いた理由を発表し、話し合う。
- 3 後片付けにこだわらずしつけ全般について、気をつけていることをワークシートに書き話し合う。
- 4 話し合いから参考となるしつけのポイントを書き、参加者同士で交流する。
- 5 話し合いのまとめを行い、参加者が実践できるように意欲づけをする。

【支援のポイント】

- 事例の会話については、ファシリテーターが親役をする等の役割演技を行い、事例の場面がイメージできるように努める。
- 子どもは家庭での約束やルールを守ったり破ったりしながら、人との関係のあり方や社会のルールの大切さを学び成長していくものであることを知らせる。
- 事例の後片付けに話し合いが終始しないよう、しつけ全般に話し合いが広まるように配慮する。
- 叱られる側の子どもの立場になって考えてみることも、しつけを行うときには大切なことを伝える。
- しつけをするときには、子どもの特質をよく理解し、子どもにあった方法でしつけをすることの大切さを知らせる。
- 問題に見える子どもの行動も、親や大人が丁寧に対応することにより、個性として育つようになることを押さえる。

【参考資料】

家庭で普段から口にして教えていること



対象：小学校5年生保護者（全国）

【平成28年度 教育に関する保護者の意識調査報告書（公社）日本PTA全国協議会2016】

○感情にまかせて叱ることとしつけとは違う

しつけは大切ですが、しつけなくては、と言う気持ちから、ついたたいてしまい、その行為に歯止めがきかなくなってしまう場合もあります。子育てのイライラやストレスが、子どもへの愛情を忘れさせ、叱るという行動にすりかわっているのではないのでしょうか。

上手な叱り方のヒントは、「叱られる側」の子どもの立場にもなって考えること。

「そう言われたら子どもはどう感じるだろうか。」「子どもはどう受け止めるだろうか。」まず、ここから考えてみましょう。

子どもたちは、家庭でのルールや約束を破ったりしながら、人との関係の在り方や社会のルールの大切さを学んでいきます。

【文科省発行 「ワクワク子育て 家庭教育手帳小学生編」】

3 子どもに自信をつけるほめ方



小学校入学と同時に、体を鍛えるためにスイミング教室に通わせています。
最初の頃は張り切って通い、どんどん進級していききました。
親としても「よかったな。これからはがんばりや。」と子どもをほめ励ましていました。
1年程前から、スイミングに通うことが少しつらそうな感じなのですが、せっかくここまで続けて
いるのだからと、「がんばり、級もあがってきているから」と励ましています。
先日、スイミングから帰ってくると、「また、級あがったわ。」と、報告しましたがあまり
うれしそうではないのです。「やったな。やっぱり頑張ったら級もあがっていくし、
〇〇さんに追いつくためにも、これからは頑張りや。」とほめました。
ほめて育てることが大事なので、これからも、とにかくほめて
子どもに意欲を持たせようと思っています。



マラソン大会に向けて、今年こそ5分を切ろうと子どもは毎日練習に励んでいました。
親も「練習頑張りや。」と励ましてきました。
マラソン大会当日、子どもは少し緊張気味でしたが、張り切って登校しました。
見に行くと、はじめはトップの方で走っていたのですが、ゴール近くになると
どんどん抜かされ、真ん中ぐらいでゴールしました。
帰ってくるなり、子どもは、「5分切れたで。」とうれしそうに言いました。
「そうか、それで何番やったん。」「18番。」
「18番か。半分よりは良かったけど、せめて10番ぐらいにならんとな。」と
言ってしまいました。子どもの表情が少し暗くなるのを見て、
よけいなことを言ったかなと反省しました。



子どもへのほめ言葉により、子どもが自信を持って行動するようになったことはありませんか。
また、どのような時に、どんなほめ方をすればよいとお考えですか。

◆ 自信を持たせるほめ方のポイント◆

親から認められた、ほめられたことからくる安心感は、子どもにとって大きな自信となり
ます。自信ができるとやる気を持って、積極的に活動するようになります。
しかし、親の思いにあった行動をしたときだけほめていたのでは、子どもは自分の気持
ちをおさえ、親の顔色を見ながら親の思いに合うように行動しようとし疲れてしまうこ
ともあります。子どもが喜びを感じ、自尊心を育てていくようにほめることが大切では
ないでしょうか。

テーマ3 子どもに自信をつけるほめ方

【ねらい】

事例を通して普段の子どもへの声かけを振り返り、親の思いだけで子どもの気持ちを考えずに励ましたりほめたりすると、子どもが親の思いに合うように行動しようとして疲れてしまうこともあることに気づく。同時に、子どもが喜びを感じる励ましやほめ言葉は、子どもにとって大きな自信となり積極的な活動につながることから、自信を持たせるほめ方のポイントについて学ぶ。

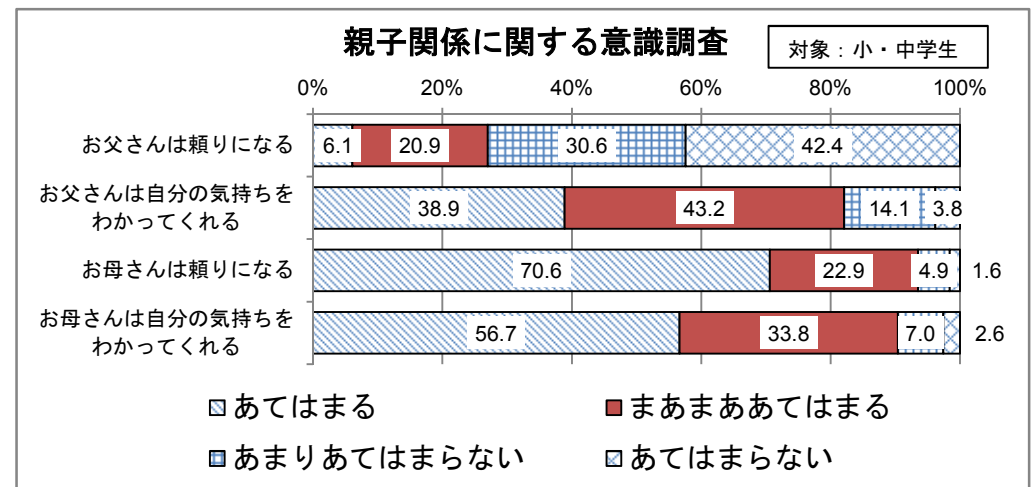
【活動の流れ】

- 1 事例を読み、普段の子どもへの声かけについて振り返る。
- 2 ほめ言葉により、子どもが自信を持ち考えて行動するようになったことをワークシートに書く。
- 3 ワークシートに書いた内容を発表し、話し合う。
- 4 話し合いから、自信を持たせるほめ方のポイントをワークシートにまとめる。
- 5 ワークシートに書いたことを交流する。
- 6 話し合いのまとめをする。

【支援のポイント】

- 事例を通して、普段の声かけや励ましは親自身の思いだけでなく、子どもの気持ちを考えて励ましやほめ言葉になっているかを振り返ることができるようにする。
- 普段の声かけが、子どもを急がせることや子どもを叱ること、子どもに命令することにかたよっていないかを振り返り、ほめ言葉が少ないことに気づくように導く。
- ほめ言葉をきっかけに、どんな小さなことでよいので子どもが今までと変化したことを思い出せるよう、簡単な例を示していく。
- 学習や遊びを通して個性を伸ばしていくこの時期は、ほめ言葉により一層自信を持って何事にも積極的に取り組むようになる可能性があることを伝える。
- 単にほめるのではなく、子どもの気持ち考えたほめ方をしないと、子どもは親の顔色を見ながら親の思いに合うように行動しようとし、疲れてしまう場合もあることを伝える。
- 事例はほめ言葉であるが、同時に叱り方についても話が広がるように展開する。

【参考資料】



【平成25年度小学生・中学生の意識に関する調査（内閣府）】

「ありがとう」がいっぱい 4年児童

わたしの家族がよく使う言葉は「ありがとう」です。送ってくれてありがとう。取ってくれてありがとう。お祝いしてくれてありがとう。何かしてもらった時に「ありがとう」とみんなが言います。わたしも家族に言いたいことは何かなあと考えてみると、遊んでくれてありがとう。かみの毛をかわかしてくれてありがとう。教えてくれてありがとう。かん病してくれてありがとう。ごはんを作ってくれてありがとう。とたくさんの「ありがとう」がまだまだあります。

「ありがとう」を言うのは、何かしてもらった時や感しゃしている時など、うれしい気持ちがいっぱいだな、と感じます。わたしは、「ありがとう」と言った後、とてもスカッとした気持ちになります。反対に「ありがとう」と言われた時は、うれしくなるし、してよかったと思います。

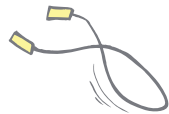
ふだんは何も考えずに使っている言葉だけれど、「ありがとう」にはとても不思議な力があって、言った人も言われた人も気持ちよくて温かい気持ちになるし、笑顔になるのだと思います。家族みんなが笑顔でいることはわたしはとてもうれしいし、笑顔になると、もっと楽しくなると思います。

わたしは、これからも家の中を「ありがとう」でいっぱいにして、楽しい家にしたいと思います。

【平成29年度「豊かな心をはぐくむ家庭づくり」に関する作文・絵画・ポスターコンクール入賞作品集】

主催：滋賀県青少年育成県民会議

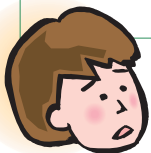
「遊び」と「友だち」



子どもの仲の良い友だちの中に、乱暴で友だちにけがをさせたり、友だちからゲームやマンガの本を借りて返さない、自転車で二人乗りをして走り回っているなど、問題行動をしばしば起こす子がいます。

うちの子は、その友だちを「みんなをよく笑わせたり、優しい面もあってよい子やで。」と言います。

でも、そんな子と一緒に遊んでいたのでは、うちの子まで問題行動を起こすのではないかと大変心配です。



お子さんの「遊び」や「友だち」との関わり方で、気になることを書きましょう。

「遊び」や「友だち」に関して気になることを、どのようにすれば解決できるとお考えですか。解決のアイデアを思いつくまま書きましょう。

◆ 子どもの人間関係への適切な関わり方のポイント ◆

POINT

子どもは遊びが大好きです。遊びを通して、人間関係づくりについても多くのことを学びます。また、子ども同士は大人の目線とは違った見方で友だちをつくり遊んでいます。

子どもの交友関係に関わっていく時には、子どもの友だちとコミュニケーションを持ったり、大人同士の関係を深めたりすることが大切ではないでしょうか。

テーマ4 「遊び」と「友だち」

【ねらい】

子どもの遊びや友だちとの関わり方で気になることを交流し、子どもの個性や特質を理解した上で、親としてどのように関わるのが子どもの成長にとって大切なのかそのポイントを学ぶ。

【活動の流れ】

- 1 事例を読み、子どもの遊びや友だちとの関わりで気になることをワークシートに書く。
- 2 書いた内容を交流し合う。
- 3 気になることの解決のアイデアをワークシートに書き、発表する。
- 4 話し合いを通して、子どもの人間関係への適切な関わり方のポイントをワークシートに書く。
- 5 ポイントを交流し合う。
- 6 話し合いのまとめをする。

【支援のポイント】

- 遊びや友だちのことについての悩みを素直に出せるような場の雰囲気をつくる。
- 悩みや気になることの解決のアイデアについては、解決まではいかなくても少しでも悩み等がやわらかくアイデアでもいいことを付け加える。
- 子どもはゆとりのある自由な時間を与えられることで、心から遊びを楽しんだり、創意工夫したりできることも押さえる。
- 自然の中で遊ぶことで、驚きや感動を体験し豊かな感性を育むとともに、自然や環境を大事にする心が育まれることを伝える。
- 子どもの友だちに対する見方は、大人とは違った目線で見ていることを知らせ、子どもの交友関係に関わっていくときには、子どもの友だちとコミュニケーションをもったり、親同士の交流を深めたりすることが大切であることを伝える。
- 楽しみが共有できる友だちとの遊びを通して、創造力や集中力が養われることを知らせる。
- 多くの友だちとは多様な遊びをすることは大切であるが、無理強いをすると子どもはストレスをためる場合があることを知らせる。

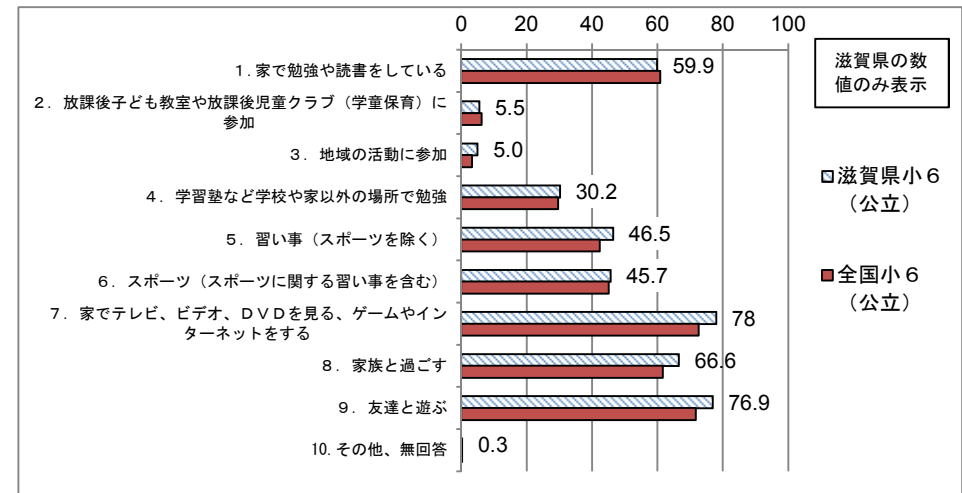
【参考資料】

子どもたちの放課後事情

◇放課後に何をして過ごすことが多いか

対象：小学6年生

%



【平成29年度全国学力・学習状況調査 小学校調査】

対象：小学生をもつ保護者

◇放課後に遊ぶ時間

たくさんある	少しある	ない
33.9%	56.6%	8.9%

◇よく遊ぶ場所をよくする遊び

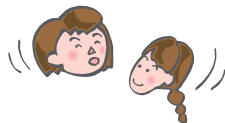
※複数回答

ゲーム（DS・PSP等）	41.0%
鬼ごっこ	27.1%
サッカー	22.1%
漫画・読書	20.8%
テレビゲーム	17.7%
自分で考えた遊び	12.4%

【子どもの主体的な学びにより人間力を育てるための調査研究事業報告書

（公益財団法人さわやか福祉財団 2011）

5 親子のコミュニケーション



最近、何かちょっと注意すると、すぐに子どもがムツとするのです。
言葉づかいが悪くなり、反抗的な態度になります。
勉強のこと、友だちのことなどいつもイライラしていて、怒りっぽく、
今までのようなほめ方や叱り方では通用しなくなってきたなと思っています。
子どもがイライラしている時には、どのようにコミュニケーションを
とってあげればいいのでしょうか。迷っています。



子どもが何か言い出すまで
見守る

放っておく

子どもが
反抗的な態度をとったり、
イライラしたりしている時

何か理由があるのか
声をかける

誰かに聞いてもらう

あなたは思春期に、どんな葛藤を経験しましたか。

◆ 子どもの心の動きを探るポイント ◆

POINT

思春期にはいると、子どもは親の知らないところでいろいろな課題を抱えます。その
子どもの気持ち、心の動きを子ども自身が語ろうとするような、上手な聞き手になるこ
とが求められます。

その時に親は、事細かに指示を出すのではなく、「あなたはどうしたいの、どう考えて
いるの。」と、ていねいに子どもと会話を積み重ねていくことが大切でしょう。

テーマ5 親子のコミュニケーション

【ねらい】

思春期の入り口である子どもの心の動きをコミュニケーションによって探るポイントを学ぶとともに、丁寧な親子のコミュニケーションを積み重ねることの大切さに気づく。

【活動の流れ】

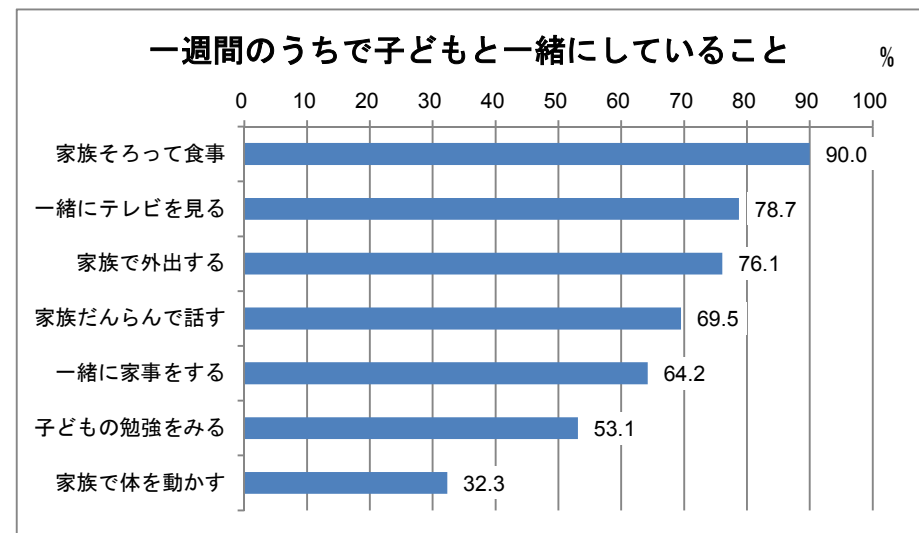
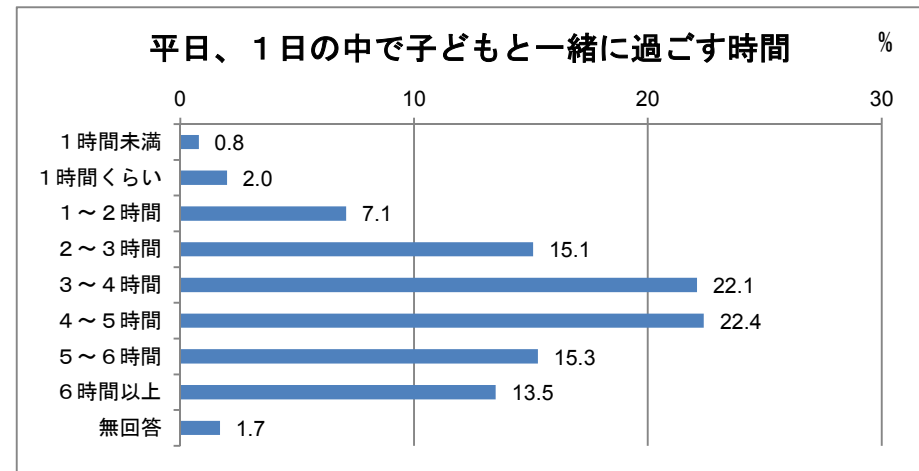
- 1 事例を読み、親自身の思春期時代に経験した心の葛藤について、思い出すことをワークシートに書く。
- 2 親自身の経験と重ね合わせ、子どもがイライラしているときのコミュニケーションのとりかたについての思いを4つから選び、理由をワークシートに書く。
- 3 書いた理由を発表し、話し合う。
- 4 話し合いの中から、子どもの心の動きを探るポイントをワークシートに書く。
- 5 書いたことを交流する。
- 6 話し合いのまとめをする。

【支援のポイント】

- 思春期時代を経験した親自身の心の葛藤を思い起こさせるように、ファシリテーターが自身の心の葛藤を事例的に話すように努める。
- 思いを話し合う中で、見守ることと放っておくことの違いについてもふれる。
- 子どもの力を信頼し、見守り任せていくことは、親が手出しをするよりずっと難しく愛情がいることであるが、あきらめることなく根気強く見守っていくことが大切であることを知らせる。
- コミュニケーションをとる場合、事細かに指示を出すのではなく、子どもの意向を聞きながら、丁寧に会話を積み重ねていくことが大切であることを伝える。
- 子どもに権利を認めたとうえで、成長に応じた権利の使い方を教えていく必要性や、子どもだからと黙らせていては、子どもは自分で判断し表現する力を培うことができないことを伝える。

【参考資料】

対象：小学5年生保護者（全国）



【平成28年度 教育に関する保護者の意識調査報告書（公社）日本PTA全国協議会2016】

6 テレビやゲームとの付き合い方



友だちとの遊びでテレビゲームや携帯ゲームが多くて困っています。もっと外遊びをしたりゲームを使わない遊びをしないと、体力や心の発達も心配です。

テレビを遅くまで見る人が多いのです。会話も減るし、学習も後回しになることが多くなってきました。何かいい方法はないでしょうか。



親①

子どもがテレビを見たりゲームをしたりする時間などは、親が決めて、きちんと守らせる必要があると思います。



親②

子どもと一緒に話し合い、ルールも決めています。



親③

テレビを見たりゲームをしたりする時間などのルールは決めています、多少守らなくても何も言いません。



親④

これといったルールはなく、子どもの自主性に任せています。

1 あなたのご家庭では、テレビの見方やテレビゲームの仕方など、親①～④のどれに近いですか。

また、テレビやゲームとの付き合い方で気をつけていることはどんなことですか。

2 話し合いの中で気づいたこと、参考になったことを書きましょう。

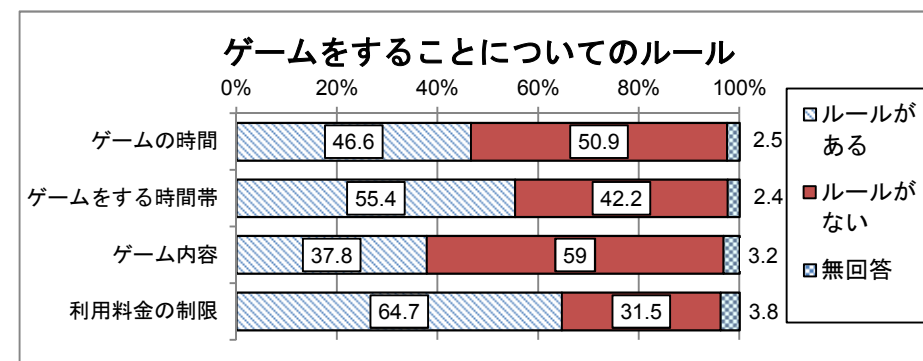
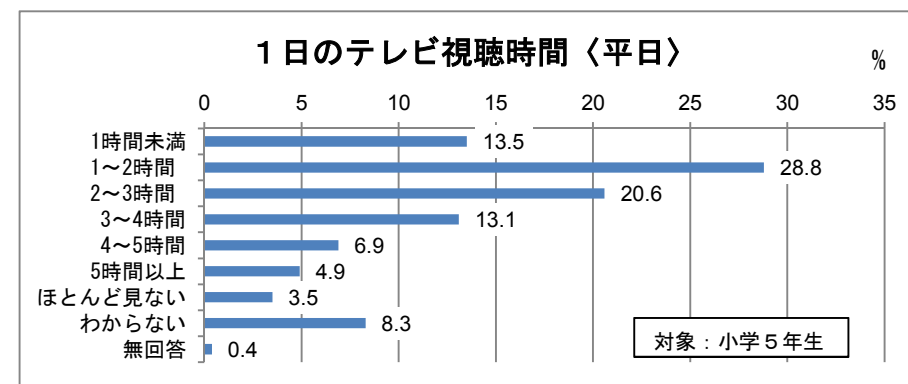
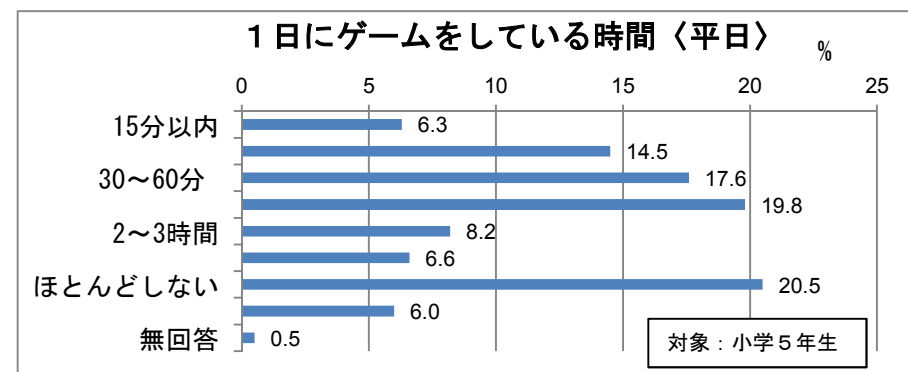
POINT

テレビやゲーム、ビデオばかりにのめり込むと、人間関係をつくる力や他人を思いやる心が育たない、仮想と現実の区別がつかなくなるなど、子どもの心の成長に影響が出てくとも考えられます。

そのため、家族の中でテレビやゲームとの付き合い方について話し合うことを通して、子どもと向き合う時間を大切にしましょう。

小学校版 テーマ6 テレビやゲームとの付き合い方	
【ねらい】 ◇家庭におけるテレビやゲームとのつきあい方を出し合い、子どものテレビやゲームとのつきあい方を見つめ直すことにより、子どもへの関わり方について考える契機とする。	
【活動の流れと支援のポイント】	
1 自己紹介 および アイスブレイク	○4～5人のグループをつくり、自己紹介をする。 (10人までであれば全体で話してもよい) ○グループ編成の時には下記のような工夫をする。 ・誕生日順、ジャンケンで3回勝った順などで一重円になり人数ごとに区切る。 ・トランプやくじ引きを利用し班を決定する。 ○簡単な名札や席札をつくり、名前を覚えやすいようにする。 ○グループ内で進行役、記録役、発表役を各一人決める。
2 事例からテーマについて知る	○ワークシートの事例を読み、親の4つのパターンから参加者がどれに近いかを選び、家庭で気をつけていることをワークシート1に書く。 ・選ぶ親のパターンは、一つだけに限らず、組み合わせてもよいことを伝える。
3 語り合いの約束を確認する	○語り合いに入る前に、約束を確認する。 ・ここだけの話にする。(個人情報に関することについて) ・相手の考えを頭ごなしに否定しない。 ・自分だけが長く話しすぎない。 ・発言を強要しない。
4 語り合い活動1	○自分が書いたことを、グループ内で伝え合う。 ・方法だけにとらわれず、家庭や子どもの様子についても出し合うことができるようにする。
5 語り合い活動2	○話し合いから気づいたことや参考になったことを記入する。 ・時間に余裕があれば、数人に発表してもらおう。
6 まとめ	○テレビやゲームとのつきあい方について家族の中で話し合うことにより、子どもと向き合う時間を大切にできるように、意欲付けをする。 ・右ページの資料を掲示したり配布したりして、視聴時間やルールについて確認する。
7 ふりかえり	○語り合った内容をふりかえり、活動を閉じる。

【参考資料】



【平成28年度子どもとメディアに関する意識調査結果報告書より(公社)日本PTA全国協議会】

7 ケータイ・ネットについて

携帯電話・スマートフォンやパソコンは、コミュニケーションの道具として、また、インターネットに接続して日常生活に必要な様々な情報を得るものとして、大人だけでなく、子どもたちの生活においても深く関わりのあるものとなってきています。

その一方で、様々なネットいじめやネット犯罪が起き、子どもが巻き込まれるケースが増加しています。また、子どもが被害者だけでなく加害者になるケースも出ています。



・携帯電話の利用率

小学生 5.4%
中学生 2.8%
高校生 1.0%

・スマートフォンの利用率

小学生 23.0%
中学生 54.6%
高校生 94.1%

【内閣府「青少年のインターネット利用環境実態調査（2017）」】

・SNS やブログ、ゲームサイト

などのコミュニティサイト（出会い系サイトを除く）を利用して犯罪被害にあった子どもの数は、1,736人。

【警察庁「平成28年度出会い系サイト及びコミュニティサイトに起因する事犯の現状」】

コミュニティサイトで被害にあった子どもの内訳

小学生・保護者 2.5%
中学生・保護者 37.7%
高校生・保護者 51.0%

【平成29年度版総務省インターネットトラブル事例集】

フィルタリングを使っていると回答した

小学生・保護者 27.2%
中学生・保護者 47.4%
高校生・保護者 45.8%

【内閣府「青少年のインターネット利用環境実態調査（2017）」】

ネット社会と小学生



※実際に起きたトラブルです

スマホの過度な使用による日常生活への支障

◆友人とのトークが連日深夜まで続き

無料通話アプリで友人とメッセージ交換（トーク）をするのが大好きなAさん。

終わらせるタイミングがわからず、夜終らせるタイミングがわからず、夜遅くまでスマホを使う毎日でした。

◇考えてみよう

友人関係が何より大切な時期ですが、生活習慣の乱れや睡眠不足は、健康や学習などにいろいろな影響がでてきます。適切な利用のためにできる工夫はありませんか？

A：睡眠について調べてみる B：ルールをつくってみる C：時間の使い方を見直してみる

【平成29年度版 総務省インターネットトラブル事例集】

◆遅刻や居眠りをするようになった

朝起きるのがつらくなり、眠たくて授業に集中できなくなりました。体調や成績にも影響が出ているのですが、友人とのトークはやめられません。



1 ケータイ・ネット等は、「光と影」があると言われています。良い面（助かっている点）、悪い面（困っている点）、それぞれについて考えてみましょう。

良い面

悪い面

2 ケータイなどについて、親としてどのようなことに注意したらいいのでしょうか。

3 話し合いの中で気づいたこと、参考になったことを書きましょう。

POINT

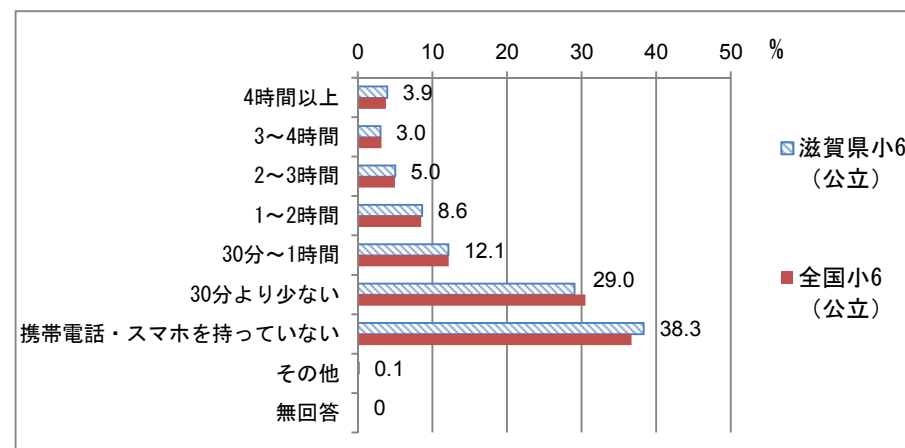
子どもたちがケータイやパソコンを介してインターネットを利用し、トラブル・犯罪に巻き込まれる事件が増加し、子どもの心身への影響が懸念されています。

携帯電話等は大変便利なものであるとともに、非常に「危険性」をはらんだものです。家庭では、その「危険性」を教え、ケータイやネット利用のルール、マナーについて十分に話し合うことが大切です。また、苦手な分野だからと敬遠せず、保護者が進んで新しい知識を身につけるように努めることも大切です。

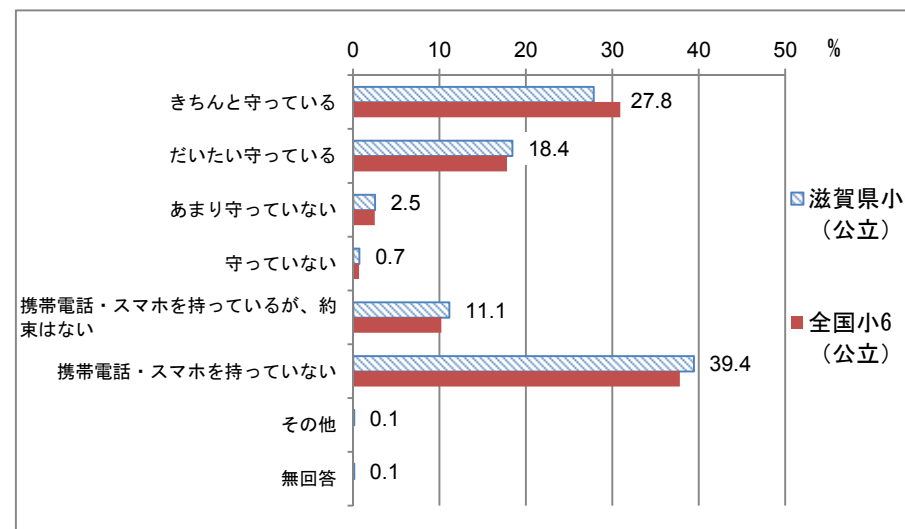
小学校版 テーマ7 ケータイ・ネットについて	
【ねらい】 ◇小学生の生活にも深く関わるようになりつつあるケータイ（携帯電話・スマートフォン）やネットであるが、様々な事件やトラブルが起きていることを踏まえ、ケータイやネットの特徴を見つめ直し、子どもたちの所持や利用についてどんなことが大切かを考える契機とする。	
【活動の流れと支援のポイント】	
1 自己紹介 および アイスブレイク	○4～5人のグループをつくり、自己紹介をする。 （10人までであれば全体で話してもよい） ○グループ編成の時には下記のような工夫をする。 ・誕生日順、ジャンケンで3回勝った順などで一重円になり人数ごとに区切る。 ・トランプやくじ引きを利用し班を決定する。 ○簡単な名札や席札をつくり、名前を覚えやすいようにする。 ○グループ内で進行役、記録役、発表役を各一人決める。
2 テーマについて深める	○ケータイやネットの良い面、悪い面についての考えを交流する。 ・シートのはじめの文および「ネット社会と小学生」のデータや事例を読みあい、考えるきっかけとする。 ・ワークシートに記入した考えを交流し合うことで、保護者としてしっかりと子どもをサポートしていかなければならないことを確認する。
3 語り合いの約束を確認する	○語り合いに入る前に、約束を確認する。 ・ここだけの話にする。（個人情報に関することについて） ・相手の考えを頭ごなしに否定しない。 ・自分だけが長く話すぎない。 ・発言を強要しない。
4 語り合い活動	○親として気をつけたいことについて語り合う。 ・まず、ワークシートに記入したことを伝え合う。 ・知識の差が大きい分野なので、だれもが気軽に発言できるような雰囲気づくりに心がける。
5 資料により現状を知る	○右ページの資料や危険性のわかる資料、最新のデータなどを示し、ケータイやネットの利用やトラブルについての現状を確認する。 ・コンピューター室等で実際にコンピューター等を使い、有害サイト等の現状を確認し合うのもよい。 ・専門的な話にばかり流れないように気をつける。
6 まとめ	○話し合いの中で参考になったことをワークシートに書く。 ・時間に余裕があれば、数人に発表してもらう。 ・シートのポイントについて確認し合う。
7 ふりかえり	○話し合った内容をふりかえり、互いにお礼を言って話し合いを閉じる。

【参考資料】

◇普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、携帯電話やスマートフォンで通話やメール、インターネットをしますか。
（携帯電話やスマートフォンを使ってゲームをする時間は除く）



◇携帯電話やスマートフォンの使い方について、家の人と約束したことを守っていますか。



【平成29年度全国学力・学習状況小学校調査より】

8 いじめのない社会へ —子どもの心の声が聞こえていますか—



ある朝のできごとです。
いつもの時間になっても、たろうくんは起きてきません。
何回も声をかけるのですが、起きてくる気配がありません。
時間はもう遅刻ぎりぎりです。このままでは、自分も仕事に遅れて
しまいそうな母（父）は、急いでたろうくんのところへ行き・・・



親①

いつまで寝ているの、早く起きなさい。もう遅刻するわよ。

学校なんてもう行きたくない。
ぼくは今日、学校を休むよ。



たろう



親②

参考：ほんの森出版刊 保護者会で使えるエンカウンター・エクササイズ (P68)

親②のせりふが書けたら、グループで1～3に取り組んでみましょう。

- 役割を決めて、たろうくん役と親役を演じてみましょう。
・会話は、自分の書いたものを発表するだけでなく、回し読みするなど工夫してもOKです。親①の言葉も自分の言葉にかえてみてください。
- 親②の言葉中心に会話を聴き合しましょう。
・聴くときには、できるだけたろうくんの立場になり、自分がたろうくんだったら、次にどう言うだろうと考えながら聴きましょう。
- 全員の発表が終わったら、感想や意見を出し合しましょう。
・親②のせりふはいろんなものがあつたと思いますが、否定するのではなく共感し合うことを基本に、気楽に意見を交流しましょう。

子どもと心を通い合わせる会話って？

- 1 親子でじっくりと会話を交わしていますか。日頃、子どもとの会話でどのようなことを気をつけていますか。

- 2 話し合いの中で気づいたこと、参考になったことを書きましょう。

POINT

子どもは、「親には自分のことを全て理解してもらいたい。」という思いも、「親にはちょっと言いづらい。」という思いも持っています。また、親子の間では、身近な存在であるだけに、話し合うことが難しいこともあります。しかし、家庭は子どもにとって社会性を身につける第1の場所でもあります。日ごろから、コミュニケーションを大切にしていきましょう。自分のことに悩むようになればもう1人前と言えるのではないのでしょうか。子どもの人格を尊重して、その思いをしっかり受け止めることで心の通う会話が生まれてくるはずです。

小学生版テーマ8 いじめのない社会へ ―子どもの心の声が聞こえていますか―	
【ねらい】 ◇日常の中で子どもとのコミュニケーションをふりかえり、参加者相互の悩みや工夫点を交流し合うことで、子どもを理解することや日常の心の交流の大切さを再認識する。親子の会話などを通して子どもの自己肯定感を高めることは、いじめの早期発見・早期対応や、いじめのない社会を築いていくことへつながっていくことについても考える機会とする。	
【活動の流れと支援のポイント】	
1 自己紹介 および アイスブレイク	○4～5人のグループをつくり、自己紹介をする。 (10人までであれば全体で話してもよい) ○グループ編成の時には下記のような工夫をする。 ・誕生日順、ジャンケンで3回勝った順などで一重円になり人数ごとに区切る。 ・トランプやくじ引きを利用し班を決定する。 ○簡単な名札や席札をつくり、名前を覚えやすいようにする。 ○グループ内で進行役、記録役、発表役を各一人決める。
2 語り合いの 約束を確認 する	○語り合いに入る前に、約束を確認する。 ・ここだけの話しにする。(個人情報に関することについて) ・相手の考えを頭ごなしに否定しない。 ・自分だけが長く話すぎない。 ・発言を強要しない。
3 事例に取り 組みテーマ について知 る	○ワークシートの設定を理解し合い、親②のセリフを吹き出しに書く。 ・何を書いてもいいことを確認し合い、自分のことばで書き込む。 ○ワークシート下の1～3をグループで行う。 ・役割分担しながらグループで親②のセリフを声を出して読み合う。 ・子どもの立場になって親のセリフを聴き合い、感想や意見を話し合う。 ・ねらいに近づく話し合いになってきた場合は、長めに時間をとる。
4 語り合い 活動	○子どもとの日常的な会話をふりかえり、子どもとの会話で気をつけていることなどを書き、自分が書いたことをグループ内で伝え合う。 ・難しく考えると事例が出しにくくなることがあるので、進行役は書く時間に入る前に例をいくつか示していくとよい。 ○話し合いから気づいたことや参考となったことを記入する。 ・時間に余裕があれば、数人に発表してもらおう。
5 まとめ	○語り合いのまとめをする。 ・右ページの資料を活用したり、話し合いで気づいたことを発表し合ったりして、親子のコミュニケーションの大切さを確認する。
6 ふりかえり	○話し合った内容をふりかえり、互いにお礼を言って話し合いを閉じる。

【参考資料】

いじめ早期発見チェックポイント

☆子どものSOSをキャッチしましょう☆

チェックしてみましょう

- ☐表情がさえず、おどおどした様子が見られる。
- ☐持ち物をひんぱんになくしてくる。
- ☐教科書やノートにいたずらをされて帰ってくる。
- ☐いろいろと理由をつけて、お金をたびたび要求される。
- ☐衣服を汚してきたり、あざや傷をつけてきたりする。
- ☐家族の些細な言葉にイライラしたり、反抗したりする。
- ☐登園・登校をしぶったり、早退や欠席が多くなる。
- ☐家族を避け、何か隠しているような気配が感じられる。
- ☐TVゲームなどの一人遊びに夢中になり、外出が少なくなる。
- ☐よく電話がかかってきて、困っている様子がうかがえる。
- ☐体のあざや傷を隠すため、お風呂に入るのを嫌がるようになる。
- ☐学習意欲をなくし、学校の成績が急に悪くなる。
- ☐頭痛・腹痛などをよく訴えるが、特に異常はない。

【滋賀県】教育委員会「ストップいじめアクションプラン」より】

○親が子に期待するのと同じくらい、子は親に期待している

親が子を思いやるのは当たり前と思われていますが、どれだけの親が実際に子どもを思いやっているのでしょうか。思いやりとは、子どものことをよく知ることです。よく耳を傾け、子どもの世界がどんなものなのかを理解しようとし、たとえ、自分が思う通りでなくてもその子の世界を受け入れることです。

子どもの存在に感謝し、尊敬をはらい、愛情を深めていくことによって、親子の関係は進歩していきます。思いやりの心をもって接すれば、子どもが親に話すのが安心して楽になり、いじめなどの悩みも自然に打ち明けられるようになるはずです。

【文科省発行「イキイキ子育て家庭教育手帳 小・中学生編」より】

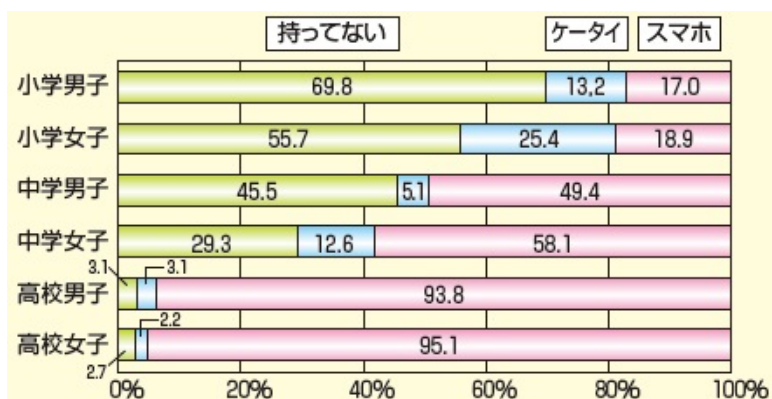
9 ケータイ・スマホの使用とわが家のルール

下記の「滋賀県校種別 携帯電話所持率」によると、小学6年男子で約3分の1、小学6年女子では約半数の児童がケータイ・スマホを所持しています。

ケータイ・スマホを使用することは、生活の中で便利な反面、長時間使用により、学習時間の減少による学力低下や睡眠不足による集中力の低下につながるおそれもあり、成長期にある子どもたちに大きな影響を与えています。



①滋賀県校種別 携帯電話所持率



ケータイ・スマホアンケート調査

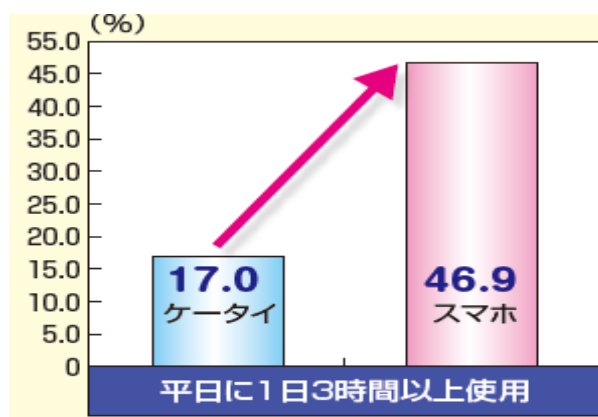
●平成26年度、県教育委員会と県PTA連絡協議会が連携して、「子どものインターネット利用実態調査」に取り組みました。小学生、中学生、高校生25名による実行委員会では、話し合いの結果をもとに、昨年10月に、小学生から高校生まで2,505名にアンケートを実施しました。その結果から見てきたのは・・・

1 みなさんのご家庭では、ケータイやスマホをお子さんに持たせていますか？それともこれから持たせようと考えていますか？または持たせない考えですか？あなたの考えはどうか？

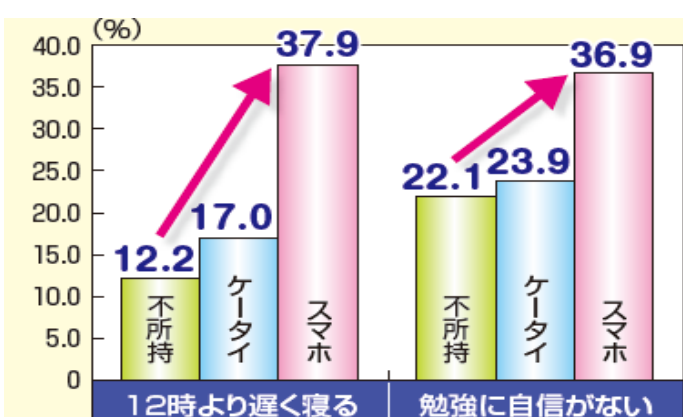
私の考えは・・・

2 ケータイ・スマホの使用について、親としてどのようなことに気をつけたいと考えますか？

②平日の携帯電話の使用時間



③就寝時間と勉強に対する自信



3 子どもがケータイ・スマホを利用するにあたり、わが家のルールを考えてみましょう。

第1条

第2条

第3条

【こんな事例があります】

小学校5年生（男子）のA君は、オンラインゲームにはまっています。夜中でも親にかくれてこっそりゲームで遊んでいます。ゲームに参加しないと、仲間外れにされるのではないかと心配で、途中でやめられなくなっています。A君は、睡眠不足が続いているため、勉強する気がなくなってしまう学校の授業に集中できなくなっています。

「ちょっと待って！ケータイ&スマホ」(文部科学省)より

POINT

ケータイ・スマホは学年が進むにつれて、子どもたちの所持率は高くなり、日常生活に深く浸透している状況にあります。まずは、子どもにケータイ・スマホが本当に必要かどうかをよく考えてみましょう。また、その使用にあたっては、子どもに任せきりにするのではなく、適切なルールを親子で話し合いつくるなど、過度な使用を抑える取組を進め、子どもの基本的な生活習慣を確立していくことが大切です。同時に、親同士も交流し、保護者のつながりのなかで、子どもたちを温かく見守りましょう。

小学生版 テーマ9 ケータイ・スマホの使用とわが家のルール

【ねらい】

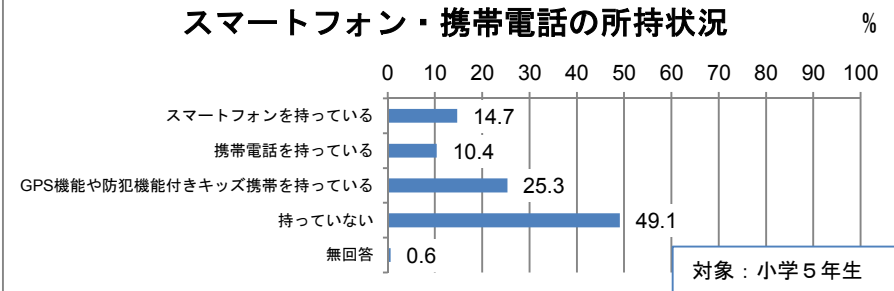
◇スマートフォン等を使用することは便利な反面、常に触っていないと不安になったり、メールができないと情緒不安定に陥ったりするなど、スマートフォンへの依存は日常生活に支障をきたすことがあります。その所持や使用にあたっては、親子でよく話し合い、子ども任せにするのではなく、適正な使用ができるよう家庭内のルールづくりを進めましょう。

【活動の流れと支援のポイント】

1 自己紹介 および アイスブレイク	○4～5人のグループをつくり、自己紹介をする。 (10人までであれば全体で話してもよい) ○グループ編成の時には下記のような工夫をする。 ・誕生日順、ジャンケンで3回勝った順などで一重円になり人数ごとに区切る。 ・トランプやくじ引きを利用し班を決定する。 ○簡単な名札や席札をつくり、名前を覚えやすいようにする。 ○グループ内で進行役、記録役、発表役を各一人決める。
2 テーマについて深める	○ワークシートのリード文を読み、語り合いのテーマを確認します。 ○アンケート調査結果の資料や事例を読み、自分の考えや感じたことをワークシートの1、2に記入する。
3 語り合いの約束を確認する	○語り合いに入る前に、約束を確認する。 ・ここだけの話にする。(個人情報に関することについて) ・相手の考えを頭ごなしに否定しない。・自分だけが長く話すぎない。 ・発言を強要しない。
4 語り合い活動 1	○親として気をつけたいことについて語り合う。 ・まず、ワークシート1、2に記入したことを伝え合う。 ・それぞれの家庭の考えを交流しやすいよう、だれもが気軽に発言できるような雰囲気づくりに心がける。
5 語り合い活動 2	○事例を読み、ルールづくりは子どもを守るために必要であることを確認し、携帯電話やスマホの使用について、家庭におけるルールを考える。 ・親が一方向的に押し付けるのではなく、親として提案したいルールを考え、ワークシート3に記入する。 ・考えたルールをグループで発表し、交流する。
6 まとめ	○話し合いの中で参考になったことをワークシートに書く。 ・時間に余裕があれば、全体で数人に発表してもらう。 ・シートのPOINTについて確認し合う。
7 ふりかえり	○話し合った内容をふりかえり、互いにお礼を言って話し合いを閉じる。

【参考資料】

スマートフォン・携帯電話の所持状況



【子どもとメディアに関する意識調査 公益社団法人 日本PTA全国協議会 2016】

＜滋賀県スマホ宣言 2016＞

- ①もっと一緒に時間を過ごそう！
- ②スマホは永久 子どもは一瞬
- ③親と子が 両方守れるルールをつくらう

＜スマホ特別委員会が出された意見より＞

○子どもたちからの意見

- ・スマホは無いものに触れることができる。
- ・世界が広がる。
- ・友だちと喋っていることが楽しい。
- ・今だからできることを楽しみたい。

○大人からの意見

- ・SNSに縛られた今の時代の子どものしんどさを親も理解してあげたい。
- ・スマホの利便性を理解しつつもダメなものはダメ。
- ・子どもを守っていくにはものわりの良い親ではダメな時もある。時には、「闘う親」にもなりましょう。
- ・大人もスマホに関する情報をよく知り、子どもたちの平成の常識と大人たちの昭和の常識をお互いに理解し、親子・家族で歩み寄り話し合うことが大切。

○アンケート結果から

おかんのスマホ使用時間が長いほど、その子どももスマホの時間が長くなる傾向にある。
 おかんへの提言・・・スマホを見るより私を見て！
 話し合いの中で、使用について親子でルールを作ることが重要だという意見が多く出された。

【平成28年度滋賀県スマホサミット 主催：滋賀県PTA連絡協議会】